

JDCP study NEWS No.2

Japan Diabetes Complication and its Prevention

May
2008

JDCP study の登録患者数増加の期待

研究リーダー／富山大学
副学長・病院長 小林 正

去年から今年にかけて、糖尿病学会では教育認定施設での JDCP study 参加の呼びかけに応じて、多くの学会員が参加していただき、登録数も 5,000 症例を越え、現在順調に伸びており、参加された先生方には深く御礼申し上げます。糖尿病学会の教育認定委員会の清野裕委員長からのお手紙などで専門医、指導医には少なくとも是非ご参加願いたいとのお願いに多くの会員から response があり、参加に意思を表明していただきました。記入にはやはり時間が要りますが、必須項目だけであれば、時間はそれほどかからないものと思います。c-128 音叉での下肢の振動覚の検査や微量アルブミン尿の検査など抜けやすいものもありますがその他は比較的簡単であると思います。食事のアンケートも患者さんが面倒であれば簡単なもののみで結構です。また、そろそろ 2 年目に入る患者さんもありますが、採血などのタイミングをお忘れの無いようお願いしたいと思います。当方も出来るだけタイミングを見て remind するようにしておりますが、前年から丸 1 年後にデータを得、ご報告お願い申し上げます。さらに end point の報告もこれから必要になるものと思われしますので、一度報告書の中の end point の項をお目どうし願いたいと思います。先生方の益々のご発展を祈念いたします。



筑波大学附属病院
病院長 山田 信博
筑波大学人間総合科学研究科
内分泌代謝糖尿病内科
講師 矢藤 繁

JDCP study の意義について

2006 年国民健康・栄養調査によれば、我が国には糖尿病が強く疑われる人が約 820 万人いると推計され、増加傾向にあることが明らかになった。糖尿病の適切な治療により、合併症の発症・進展を抑制することが強く望まれるが、標準的な治療法(ガイドライン)の確立にはエビデンスの蓄積が不可欠である。JDCP study の意義のひとつは、全国の種々の施設における様々な治療法により、どのように合併症を抑制しているか、が明らかになることである。例えば、ビッグアナイド剤やピオグリタゾン使用例における虚血性心疾患の発症率を知ることでもできるであろう。10,000 症例(目標)のデータは様々な利用方法があると考えるが、新しい臨床的介入方法のシーズを見つけることが出来る可能性もある。



JDCP study により我が国の糖尿病診療において貴重な大規模臨床データが得られる予定であり、より多数の症例がエントリーされることが望まれる。

JDCP study における神経障害の評価について

糖尿病性神経障害に関する大規模調査を行うに際し、国際的コンセンサスの得られた診断基準が存在しないが故に何を調査項目とするかが大きな問題となる。糖尿病性神経障害を考える会による簡易診断基準案が浸透していることを考慮し、今回の JDCP Study では自覚症状、アキレス腱反射、振動覚閾値および CVR-R を必須項目とすることとなった。振動覚閾値に関しては、一般的により普及しているのが C128 であると思われませんが、C64 しかない場合にはそれでも結構です。最終的な評価をする段階で、スコア化することも可能と考えられます。CVR-R の測定に関しては、簡便性の観点から「安静時」を選択しました。「深呼吸負荷」で測定している施設で「安静時」を測定することは容易であると考えられますので、是非とも「安静時」測定をお願いしたいと思います。また、自覚症状として陰性症状を訴える患者が少ないことから、選択項目である痛覚検査も出来る限りお願いしたいと思います。



日本発の新しいエビデンスの確立に向けて

このたび発表された、2006年11月の「国民健康調査」結果（厚生労働省）によれば、「糖尿病が強く疑われる人」は推定820万人、「糖尿病の可能性が否定できない人」は推定1,050万人に達しました。「糖代謝異常」をもつ患者さんの数は、5年毎の調査で増え続けており、2010年には糖尿病とその予備群を含め2,000万人を突破するものと危惧されます。JDCP study は、わが国の糖尿病患者さんの実態を合併症を中心に明らかにするとともに、コホートを定期的に追跡し、治療の状況と合併症の進展との関係を調査する大規模臨床試験です。

本研究は、日本糖尿病学会が公的資金（研究費）の助成を受けて、他の学会とも共同して推進している調査研究事業であり、現在学会を挙げて取り組んでいる一大プロジェクトです。糖尿病のより良いコントロールの達成は、血圧や脂質のコントロールに比べると厳しいとのデータが報告されている中、JDCP study の進捗が日本発の新しいエビデンスの確立につながることを期待しています。



JDCP study に関するお問い合わせ

JDCP study 事務局(富山大学第一内科)

TEL: 076-434-7248 / FAX: 076-434-5072 / e-mail: jdcpc@med.u-toyama.ac.jp

データセンター(株式会社シーポック)

TEL: 03-5840-9291 / FAX: 03-5840-9295 / e-mail: otoiwase@cpoc.co.jp